

平塚のお祭り②

祭囃子のいろいろ

お祭りを盛り上げるのに欠くことのできない祭囃子。市内にはおよそ80団体もの太鼓連・太鼓保存会が活動しています。祭囃子の系統は、平塚の囃子太鼓、田村ばやし、馬入祇園囃子の三つに分けることができます。大半は囃子太鼓の系統で、



城所ばやし

豊田や中原の太鼓、四之宮の前鳥囃子などに代表されます。特徴は、①太鼓の音が甲高いこと、②大太鼓1人、小太鼓2人の三人編成が多いこと、③太鼓の叩き合いが盛んなことです。戦前までは笛と鉦も付いていたのですが、太鼓に精力を注ぐ一方で、笛の吹き手が減っていきました。五人囃子の形態が崩れてしまっているのですが、見方を変えれば、太鼓の能力を最大限に発揮させ独特の進化を遂げた究極の太鼓囃子ともいえます。

ルーツは詳らかではありませんが、江戸時代に江戸から来た「松の市」という人が平塚宿に逗留して伝え、周辺に広められたといわれています。同系統の囃子太鼓は、市外にも厚木市西部から伊勢原市と秦野市ほぼ全域、二宮町と大磯町の一部にかけて分布しています。これらは前記した特徴の他に、代表曲である「囃子（バカップヤシ）」という曲を音楽的に分析すると、四分の四拍子が20小節で一回りするという構造が共通しています。

田村ばやしは、鎌倉時代に京都から三浦義村の館へ招かれた楽人が、土地の里太鼓を編曲したのが源流といわれます。正統な五人囃子で、笛のリードで曲が変化します。太鼓の音は柔らかく、一般の人がイメージする祭囃子そのものではないでしょうか。田村の三町で傳承する他、江戸時代後期から明治時代にかけて、大神、寒川町、海老名市へ伝えられています。寒川町一之宮では田村のことを「師匠村」と呼んでいました。また、馬入の祇園囃子は、天保年間に西方から来た人が伝えたといわれ、県内で唯一の存在です。



田村ばやし（下町）



北金目の太鼓

このように、平塚の囃子太鼓の系統は、おおむね旧中郡の範囲に分布し、田村ばやし系統は相模川左岸へ広がっています。茅ヶ崎市の祭囃子のいくつかは、面白いことに「屋台囃子」（平塚の「囃子」、田村の「屋台」にあたる）の地（基本的なリズム）は平塚の囃子太鼓とそっくり同じで、変化する部分は田村上町の「キザミ」に似ています。つまり、平塚の囃子太鼓と田村ばやしとが混じり合ったような構成になっています。市内の祭囃子がどこから伝わり、どこへ伝わったのか、解明することは困難ですが、いろいろな祭囃子を聞き比べるのはとても楽しいものです。

(平塚市博物館学芸担当)

平塚市美術館特集展

平野杏子展

開催期日 2007年11月10日(土)～2008年1月20日(日)

開館時間 9:30～17:00 (入場は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(12月24日、1月14日は開館)、1月15日、年末年始

会場 平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3 お問い合わせ 0463-35-2111

観覧料 一般200円/高大生100円/中学生以下無料



磨崖仏讃 I 1978年



ボロブドールの善財童子 1974年

平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方(敬称略) (平成19年8月から19年10月)

■湘南新舞踊協会 (9.29)



発行//平塚市(文化行政推進室) ●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください(今後の参考とさせていただきます) →ご意見等はEメールで (E-mail //bunka@city.hiratsuka.lg.jp)